■ 変化タイプ：折れ線グラフ

折れ線グラフとは、時点ごとのデータを線でつないだグラフです。時間軸に沿った要素の変化を示すのに適しており、業務利益率の推移を予想するなど、対象に対する傾向分析を行うのに役立ちます。

目盛上で省略された部分がある場合、要素の大きさを相手が誤解しないよう省略記号を目盛軸に必ず記載しましょう。

図形ツールを使う方法もありますが、見栄えと手間のバランスが最も優れているのは、グラフの背景色に合わせたテキストボックスで「＝（イコール）」を入力する方法です。

折れ線グラフの理解を助けるために、各断面における要素の量を棒グラフで併記することがあります。【図表４-17】のように、対売上率の折れ線だけではＸ社の悪化傾向しかわかりませんが、各年の売上も示すことで、「売上拡大に伴う健全なもの」と説明できるようになります。

■ 変化タイプ：面グラフ

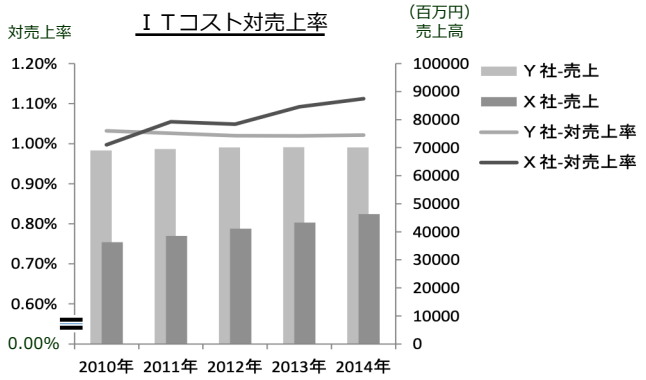
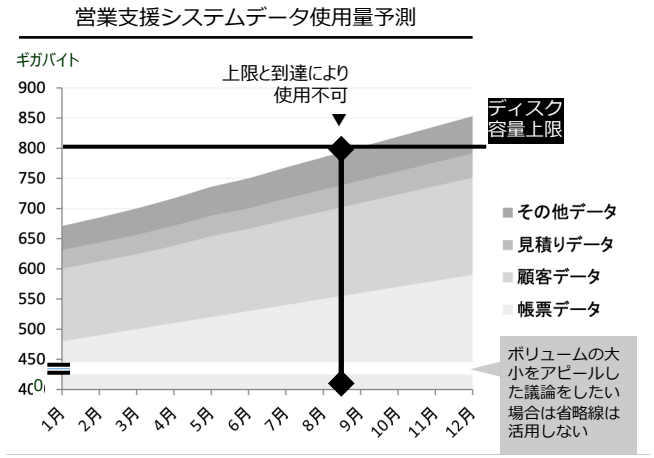
面グラフとは、時点ごとのデータを線でつないで積上げたグラフです。時間軸に沿った総量の変化を示すのに適しており、システムリソースの使用率測定など、上限値を意識した傾向分析を行うのに役立ちます。

たとえば、【図表４-17】では、この傾向が続くと８月～９月の間にディスク容量の上限に達して使用不可になることがわかります。

上限値を水準線で示し、どの時点でそれに達するか（面グラフとの接点）を明示することで、対策しなければならない期限を議論することもできますし、積み上げられた各面について、データの増加抑制を働きかけるのに、「帳票データ」と「顧客データ」であることもわかります。変化量をアピールしたいなら、目盛りを省略します。

図表4-17 グラフ：変化タイプ

折れ線グラフ



面グラフ